

## 大型プロジェクトで 経済効果

**大使** そうなんです。観光収支は貿易外勘定の中でも特に悪く、その年間赤字額は実に十五億ドルに達しています。これは大きな心配の種になっておりまして、議会でもどう対処すべきか、討議されています。どうも奇妙なことですが、カナダでは国内航空運賃が比較的に高くて、フロリダやカリフォルニア、ホノルルなどへはどちらかと言えば安く行ける。運賃が比較的安いので、人々はそういう暖かいところへどんどん行ってしまおう。

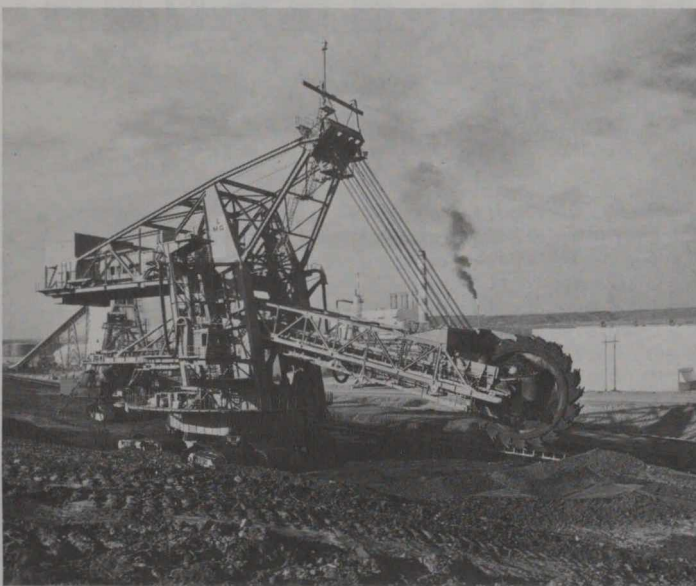
ただ、カナダの将来については、いくら楽観できると思います。現在、いろいろな大型プロジェクトを進めようとしており、これらは大きな刺激要因になるでしょう。例えばアルキヤン・パイプライン・プロジェクトです。全長四千キロというこのパイプライン建設計画は、単に北極海から天然ガスを輸送するということだけでも、また膨大な量のパイプラインの供給が必要、というだけでもありません。サービス関連産業全体が、ひとつのプロジェクトとしてはカナダ建国以来最大の事業に取り組む——これが一番重要な点です。その効果はきわめて大きいと思いますね。エネルギー庁はパイプラインをアルキヤン工場のあるキティマツト（バンクーバー北方）まで延長し、エドモントンで既設のパイプラインと接続する案を提出しています。これも大型プロジェクトです。そのほか、ケベックにおけるジェームス湾電力開発計画——これは総額百五十億ドルをかけて出力一万メガワットの水力発電所を建設する計画で

す——も軌道に乗っています。エネルギーについては、わが国の将来は比較的に明かるいですね。

**武山** 日本と比べて、カナダはその点、非常に幸運ですね。

**大使** フロンティア地域の石油や天然ガスを利用できるまでには、あと五年ないし十年かかるかも知れません。その間に、南部カナダでもっと在来形態の原油を発見できないと、多少苦しくなる恐れがあります。ごく最近、アルバータ州で有望な油田が発見されました。石炭は、今後何世紀も国内需要を満たし、かつ輸出する余力があります。また、ご承知のように、オイル・サンドの開発について日本側と話し合っています。カナダ石油公社（ベトロ・カナダ）のホッパー総裁が昨年暮れに来日し、オイル・サンド開発について日本側と協議しました。カナダでは、ベトロ・カナダ、シ

ティ・サービス・カナダ、インベリアル・オイルが、コンソーシアムを設立、アルバータ州アサバスカの鉱区（約五千平方キロ）でオイルサンド開発事業計画（参加社の頭文字をとって、P C Iプロジェクトと呼ばれる）を進めています。これに日本側が出資し、二五パーセントの鉱区権・生産原油権を保有する条件で参加を要請しました。大いに期待できそうです。アサバスカのこの鉱区では、およそ千六百億バレルの原油が確認されており



アルバータ州アサバスカで掘削が進められているオイルサンド

（世界の在来原油の確認埋蔵量は、約六千二百億バレル）。これは長期的なプロジェクトで、実際の生産体制に入るのはい九九〇年代に入ってからのことです。それまでにオイルサンドの地層内回収法の確立など、技術開発を急がなければなりません。

**武山** 問題はやはりコストでしょうね。オイルサンドから石油を抽出するには、莫大な金がかかる……。

**大使** いやいや、現在の石油の国際価格からしますと、オイルサンドの開発コストはもはや高くないんです。抽出技術を改善して、さらに経済性を高めることも期待できます。

このように、われわれの前途には、大型でしかも有望なプロジェクトがいろいろ並んでおりまして、これらは経済全体に好ましい波及効果を及ぼすでしょう。

ただ、失業率八・二パーセントというのは深刻です。どうも、インフレと失業が一緒になって、一方に対する薬は他方に対して毒となる、経済史の上で特殊な時期にめぐり合わせたようですね。

**武山** 残念ながら、すべての先進工業諸国は、いわゆるスタグフレーションに陥っているようですね。

**大使** ただ強調しておきたいのですが、そのために苦しんでいる人は一人もいないですね、カナダには。社会保障制度が行き過ぎと言われるほど整備されているからです。失業保険の給付率は高いし、乳幼児手当、老令年金、カナダ年金、必要に応じた諸扶助など、いろいろな制度もできています。

それでも、個人的に——純粹に個人的に申しまして——八・二パーセントという失業率のことはやはり心配ですね。しかし、カナダの失業率がそんなに高いとは信じられません。統計のとり方に問題があります。例えば外で半年間働いた主婦が、子供を生むための理由でやめても、統計上は失業者として数えられる。成熟した——あるいは未成熟のといいますが——社会になったため、仕事はちゃんとあるけれども、人々はそういう仕事につきたくない、という場合もあります。事実、私が帰国して会った多くの友人は、働き手が足りないといはしてましたよ。

**武山** 大学新卒など、若者の失業率はいかがですか。

**大使** よくないですね。これは一つには経済成長が追いつかず、若者を吸収しきれなかった、ということもありますが、それだけでなく、最低賃金制も雇用の壁になっているようですね。